



Contents

目次
業績の推移 1

ごあいさつ 2

事業のご報告

事業のご報告 3

特集・トピックス

フォーカス オン シスメックス
株主様アンケートのご報告 5

フォーカス オン シスメックス
シスメックス上場10年の
歩みと未来 7

トピックス
第39期上半期事業活動の動向 9

財務諸表の概要

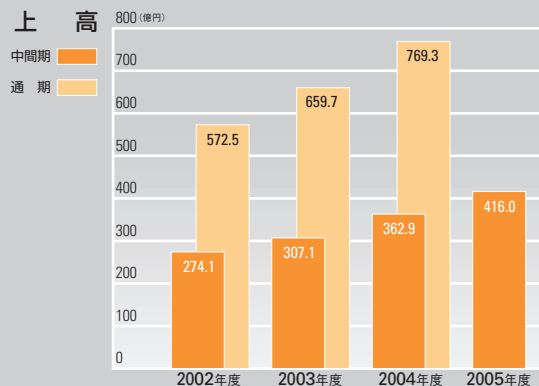
連結 11

単独 13

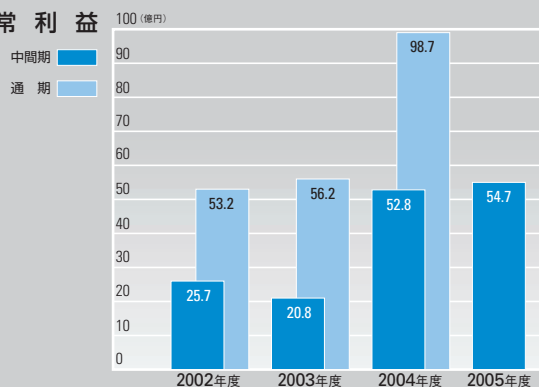
株式の状況 / 株主メモ 14

会社概要 / 役員のご紹介 /
IR・広報室からのお知らせ

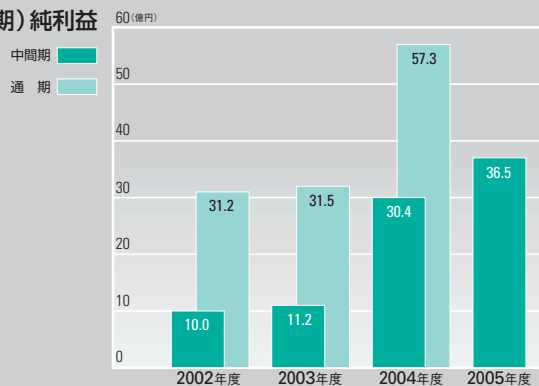
売上高



経常利益



中間(当期)純利益



※2005年度より、一部を除く連結子会社の決算期を親会社に統一しています。

Message

ごあいさつ

医療環境が大きく変化するなかで 過去最高の業績を達成しました。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当中間期は海外売上比率が60%を超え、海外における事業の重要性はますます高まってまいりました。当社グループにとって、グローバルベースでの市場動向が、大きな影響を及ぼすようになってきています。

このような状況のもと、中国、インドの成長が著しく、医療の市場拡大が予想されています。また先進国では医療費抑制政策が進んでいますが、ヘルスケア需要は増えてきています。特に医療先進国である米国では、GDPに占める医療費の割合が増えつづけています。

一方、日本では医療制度改革のもと、医療費抑制に向けた取り組みが本格化し、市場全体が厳しい状況に置かれています。しかし、少子高齢社会を目前にして、日本ではヘルスケアに対する需要はますます大きくなりつつあります。

当社は、新興国における医療の体制整備や、先進国における高齢化によりヘルスケア事業は、21世紀の成長産業であると考えています。

このような市場環境のもと、売上高は416億円と6期連続の増収、4期連続の二桁成長となり、また経常利益は54.7億円と過去最高を更新しました。配当金^(注)につきましては中間期は20円とし、期末は10円、年間

では30円を予定しています。

本年4月にスタートした中期経営計画は、その実現に向けて様々な取り組みが進んでいます。まず組織面では研究開発体制を再編成し、より効率的で強い研究開発のための新体制を構築しました。また、日本ではソリューションセンターの開設、海外では欧州と米国での試薬生産工場の拡張、新設に着手し、東欧・ロシアにおける販売・サービス網の整備・充実を図るなど、グローバルベースで事業拡大に向けた体制づくりを着々と進めています。今期、当社株式に投資いただき易い環境を整えるため、株式の分割を実施しました。株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

家次 恒

(注) 期末配当金予想については、2005年11月18日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。現在のところ配当総額に変更はありません。期初予想の1株当たり期末配当金20円は今回の株式分割の割合で換算すると10円になります。

Operation Review

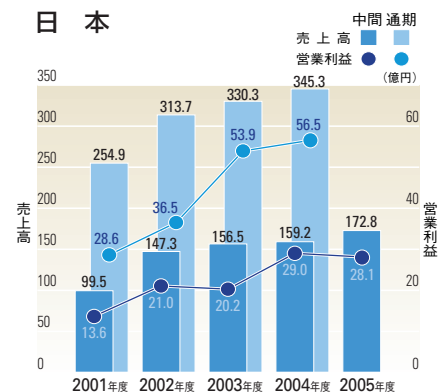
事業のご報告 —所在地別セグメント—

日本

No.1の販売サービス体制を活かしたソリューションビジネスの推進

日本における市場環境は、現在非常に厳しい状況に置かれています。しかし、機器のリース導入や共同購入など医療機関における購入形態は多様化しており、変化の兆しも見え始めています。このような環境下で、当社は総合サプライヤーとしてのソリューションビジネスを推進しています。お客様のニーズに合わせた販売スキームの拡充や、ISO認証ビジネスも始めています。

また日本No.1の販売・サービス体制を活かしたSNCS*契約件数の拡大や、POC市場・ヘルスケア関連市場に向けた販促活動を強化しています。



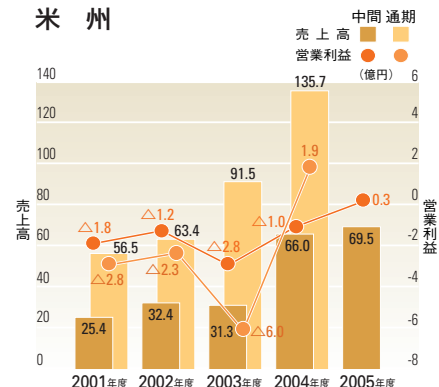
※韓国・台湾の売上および海外関係会社向けの利益を含みます。

米州 (北米・中南米)

中小病院市場でのカバー率の向上とシスメックスブランドの着実な浸透

米国でスタートした直接販売サービスは順調に推移し、退役軍人病院グループやIHN*など、米国特有の非常に大きな病院グループ組織への納入を果たしました。また血液凝固分野・血球計数分野で売上増加率トップ企業に与えられる「ベストインクラス」賞を受賞するなど、シスメックスに対する評価は次第に高まりつつあります。

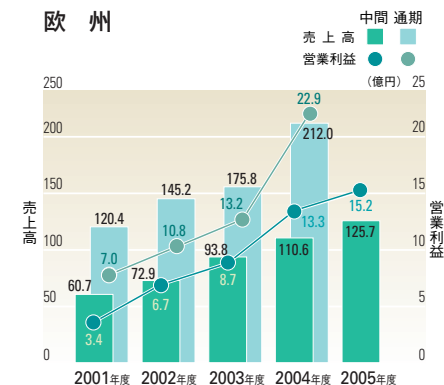
米国市場におけるシェア拡大の余地は大きく、特に中・小病院市場にフォーカスし、小病院、開業医市場については代理店の活用など販促活動を強化していきます。



欧州

ITを活用したソリューションビジネスの拡大

欧州では代理店による検体検査とITを組み合わせたビジネスが拡大し、好調に推移しています。また、「pocH-100i」を使用した向精神薬投与のモニタリングのためのアプリケーション開発など、当社はメンタルヘルスの領域にも一歩を踏み出しました。今後はITを活用したソリューションビジネスの推進や欧州試薬工場の拡張を図りながら、東欧、ロシア、アフリカなど新興市場においても、血球計数装置の拡販をさらに進めていきます。



*SNCS (Sysmex Network Communication Systems) :

リアルタイムの外部精度管理・装置状態の自動監視や、Webによる情報提供を行なうサービス

*IHN (Integrated Health Network) :

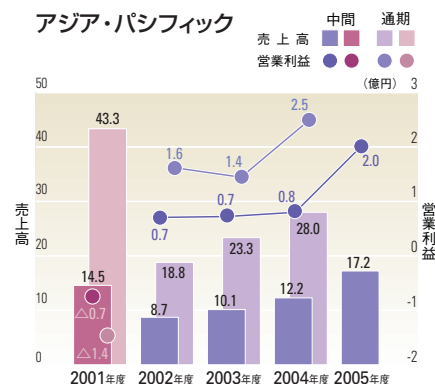
米国の総合医療事業体。複数の病院により形成され、広域の医療圏で地域住民に必要な医療の提供を目的とした組織。

アジア・パシフィック

総合サプライヤーとしての品揃えとソリューションビジネスの推進

アジア・パシフィック市場では、血球計数装置および血液凝固測定装置を中心に、オーストラリア、ニュージーランドなどの先進地域や、東南アジア、インドなどの新興地域において、順調に成長を続けています。また、生化学分野へも参入を果たしました。当市場はインドに象徴されるように非常に大きな人口を抱え、またマラリヤなどの感染症が多く見られます。今後は、総合サプライヤーとしての品揃えを拡充しながら、生化学分野、免疫分野を視野に入れた、アジアに立地する当社の強みを活かした取り組みを進めていきます。

アジア・パシフィック



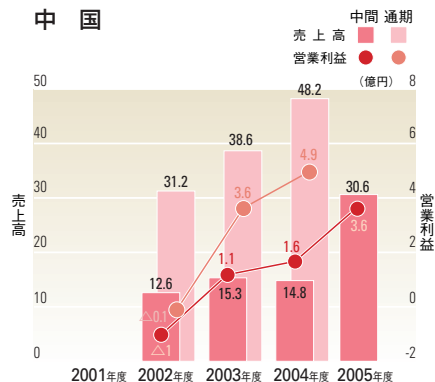
中国

急成長を続ける市場で、都市部と農村部での販売促進を強化

中国では2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博に向けて大きく成長しています。政府はSARS（重症急性呼吸器症候群）再発防止に全力で取り組んでおり、ヘルスケア分野にも非常に力を入れています。特に都市部の成長は著しく、農村部でも政府による大規模な入札案件が増加しています。

上位機種、高機能機種への買い替えも進み、その結果、試薬の需要も高まっています。今後は都市部では高機能機種への買い替えや農村部での小型機種の新規購入を促進し、販売活動およびサービス&サポートを強化していきます。

中国



※2001年度の売上はアジア・パシフィックに含まれます。

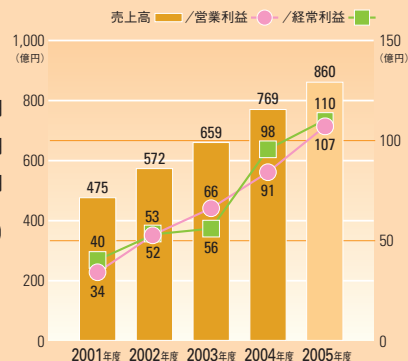
■今後の事業展開

本年4月に研究開発企画本部を新設し、中央研究所、機器開発本部、診断薬開発本部のテクノロジーの融合を推進しています。研究開発体制の充実により、スクリーニングから疾患マネジメントに向けた技術の融合を加速し、より価値の高い検査を創出し、早期の事業化を目指しています。先進国では、ソリューションビジネスの推進に取り組み、新興国においては医療体制整備にともなう血球計数装置を中心とした販売を強化し、グローバルベースで事業拡大に向けた体制づくりを進めていきます。

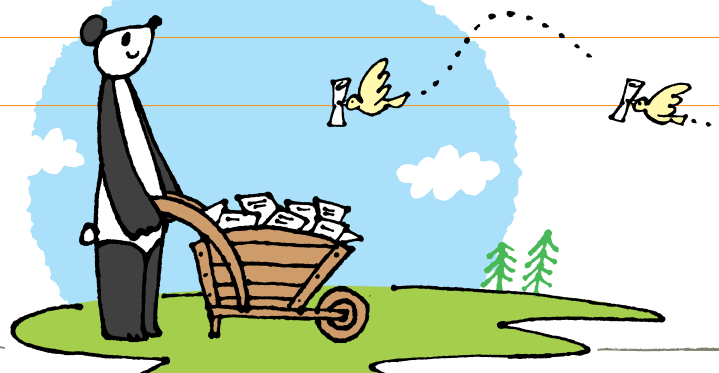
■2005年度見通し (連結)

売上高	860億円
営業利益	107億円
経常利益	110億円

(為替レート:1ドル=110円
1ユーロ=135円)



※2005年度より、一部を除く連結子会社の決算期を親会社に統一しています。



株主様 アンケートのご報告

有効回答数: 1455名

IR活動全般に関して

- IR活動に熱心に取り組んでいることに感銘をうけた。
今後の充実に期待している。(40歳代・男性)
- 株主に会社の位置を理解させようと努力し、会社も安定経営しようとしていることが理解できる。(60歳代・男性)
- 株価対策・株主対策について今後どう取り組んでいくのか。(50歳代・男性)
- 株主優待として、血液の検査をやって欲しい。費用等の問題もあると思うが、ある程度の制約は、株主が負担しても良いと思っている。(20歳代・男性)
- 株主への配当政策についての具体的なコメントがほしい。(60歳代・男性)
- 株主優待制度をお願いします。(50歳代・女性)
- 関東でもIRフェアを開催、株主に参加を呼びかけてほしい!(60歳代・女性)
- 企業訪問企画(無料招待)があると面白いと思います。(50歳代・男性)
- 工場見学の機会を作ってほしい。(40歳代・男性)
- 夏休みに子ども達のために会社を公開した事を知りました。まだあまり知られていないので、子ども達を対象とするところも気に入りました。(70歳代・男性)

IR・広報室より>> 多種多様なご意見・ご提案を賜りました。これらのご意見を参考にさせていただき、皆様のご要望に少しでもお応えできればと思います。また、株主様と接する機会を今後とも大切にさせていただきます。

掲載内容に関して

- 素人にもわかりやすい製品の説明を記載して頂ければ幸いです。(70歳代・男性)
- 新製品(技術)の紹介もしてほしい。(50歳代・男性)
- 代表的な商品を掲載して下さい。(60歳代・男性)
- 今後経済成長が期待されるBRIC'Sに対する具体的な事業戦略などを教えてほしい。(40歳代・男性)
- 会社のリスク情報の公開と、その対策方法等についても掲載してほしい。(60歳代・女性)
- グローバルな視点からの事業環境とその中での御社の重点施策を適時に示してほしい。(60歳代・女性)
- 競合他社との比較・差別化の説明。(60歳代・男性)
- 業界での位置が知りたい。(70歳代・男性)
- 他の業界の技術との差は何か、どのような将来展望が期待できるのか等、分かりやすい説明がほしい。(70歳代・男性)
- 次号以降では技術系の社員の方を登場させるなどして、技術について詳報してほしい。(50歳代・男性)

IR・広報室より>> 株主様の視点から、掲載すべき情報に関して幅広い意見を頂戴しました。株主通信、事業報告書、あるいは当社ホームページなどで、当社の取り組みを正確に素早くお伝えできればと思います。

株主の皆様とのより深いコミュニケーションを目指して、今期から四半期報告書『Be Fine!』を発行しました。創刊に対して、実に数多くのご意見・ご要望をいただきました。株主の皆様の当社に対する期待の大きさをあらた

めて実感しました。お寄せいただいた貴重なご意見は、当社の今後に活かしていきたいと思えます。誌面の都合上その一部しか掲載できませんが、ここに皆様からのご意見をご紹介しますいただきます。

＊ 広報活動に関して ＊

- 震災復興10年「Tシャツプロジェクト」に参加するなど地域貢献、日頃の広報活動を誇りに思います。(60歳代・男性)
- 王子動物園で貴社の名前を拝見しました。地域参画なさっているのをほほえましく思いました。(70歳代・女性)
- 関東圏へのPRを進展すべき。(60歳代・女性)
- 企業ブランドをもっとPRして下さい。(50歳代・男性)
- TVCMも加えた広報活動をし、より多くの人々に御社を知らしめてほしい。(50歳代・男性)
- 未だ知名度(国内外)が低いと感じる。期待できる技術力と開発力を保有している会社であるので、情報PR活動に注力すべき!(60歳代・男性)
- トリノオリンピックetc、スポーツ関連TVに会社CMをしてほしい。(50歳代・男性)
- 将来性のある会社だと思うが、知名度が低いのか知らない人が多い。一般に向けてのPRを積極的にされてはいかがでしょうか。(50歳代・女性)

IR・広報室より>> 当社の広報活動に対し、多くの皆様から叱咤激励を頂戴いたしました。当社がまだまだ認知度が足りないことを真摯に受け止めるとともに、さらなる知名度向上に取り組んでいきたいと思えます。



＊ 『Be Fine!』に関して ＊

- 色合いが爽やかで、中の文章もとても読みやすく、広報担当の方々の心意気を感じます。次回も楽しみです。(40歳代・女性)
- 神戸の企業らしく、とてもオシャレなデザインですね。「21世紀に伸びる企業」を象徴しているようです!(70歳代・男性)
- 冊子タイプではなく一枚紙でとても読み易くてよかったと思います。内容もわかりやすく、コンパクトにまとまっていて理解しやすかった。(30歳代・女性)
- 業績の単位が百万円で、億単位にしている他社が見やすい。(50歳代・男性)
- 株主通信の(人物)写真、動きのある写真は、貴社が前進している感じがしてとてもいい印象を受けました。(30歳代・男性)



IR・広報室より>> 創刊ということもあり、このようなご意見・ご感想は大変ありがたいものです。発行ごとによくなっていると感じていただけるように、誌面づくりに工夫を凝らしていきたいと思えます。今回いただきましたご意見をもとに、業績グラフに関しまして和暦表示を西暦表示へ、百万円単位から億円単位へ表示を変更しています。



アンケートにご協力いただきありがとうございました。予想をはるかに超えるご応募をいただき、先着500名様へのプレゼントを予定しておりましたが、350名の株主様に追加でプレゼントさせていただきました。株主の皆様の貴重なご意見をもとに今後もIR活動を充実させていきたいと思えます。

これまで、 そしてこれからも社会に開かれた企業として

1995

売上高
309億円

従業員数
(当社グループ)
1,415人

2000

Sysmex の歩み

1995

- 大証二部上場
- ISO認証取得



1995~

- 中国、アジアの
拠点整備に着手

1996

- 東証二部上場
- 家次社長就任
グローバル化に向けた経営戦略を
推進



1998

- 社名変更
東亜医用電子株式会社から
シスメックス株式会社へ

Sysmex

2000

- 東証・大証一部昇格
- 中央研究所開設



2001

- 国際試薬(株)を
子会社化



2001~

- ライフサイエンス関連の
研究に着手
- リンパ節転移迅速診断技術
- 抗がん剤効果予測技術
- がん再発予測技術
- 子宮頸がんスクリーニング技術
- 微侵襲血糖自己測定技術
- 糖尿病マネジメントシステム



社会の 動き

1995

- 阪神・淡路大震災
- PL法(製造物責任法)施行

1996

- O157食中毒多発

1997

- 消費税率5%に引上げ
- 地球温暖化防止京都会議開催

1998

- 長野オリンピック開幕
- 明石海峡大橋開通

1999

- 臓器移植法に基づく初めての
脳死臓器移植実施
- ゼロ金利政策実施
- 2000年問題(Y2K)注目

2000

- ヒトゲノムドラフト配列の
解読終了

2001

- 小泉内閣発足
- アメリカ同時多発テロ事件

2002

- 完全週休五日制のゆとり
教育スタート
- 2002 FIFAワールドカップ
韓国/日本開催
- 北朝鮮拉致日本人が帰国

当社は、1995年上場を契機に、世間に通用する体制の整備、社名の変更、魅力ある人材を確保してきました。そしてグローバルアライアンス、M&Aの成功など、グローバルに戦える企業へと変革してきました。同時に、積極的に情報を開示し、企業経営の透明性や健全性を高め、

株主様からの信頼とご支援をいただけるようIR活動を強化してきました。そして本年、上場10周年目の節目を迎えたシスメックスは、今も上場当時の志を抱き社会に開かれた企業として、その責任を果たしていきたいと考えています。

2005

従業員数
(当社グループ)
3,266人
売上高
860億円
(2005年度目標)

2003

- 米国で直接販売サービスを開始

2004

- (株)シーエヌエーへの資本参加
- ライフサイエンス関連テーマの進歩

GD-100発売



- シスメックスブランドのグローバルでの浸透
海外売上高の急増

2005

- 拠点の整備・拡充
ロシア駐在員事務所、ポーランド新会社、
米国・欧州試薬工場の強化に着手
- 社会への貢献
震災復興10周年Tシャツプロジェクト、
王子動物園バンドを支援



- ライフサイエンス関連の研究テーマの事業化を推進
技術の融合とシナジーの発揮、価値の高い検査の創出と早期の事業化

グローバル展開により海外売上比が増加

2003

- イラク戦争始まる
- 感染症SARSが世界的に流行
- ヒトゲノム解読の全作業を完了

2004

- 鳥インフルエンザウイルス感染が確認
- 新潟県中越地震
- 新紙幣発行

2005

- 愛知万博「愛・地球博」が開催
- 個人情報保護法全面施行
- 第3次小泉内閣発足

>>Sysmexの未来>>

検体検査事業のさらなる成長と ライフサイエンス事業の本格展開

当社はその成長の過程で、機械・電気技術、IT関連技術、試薬の技術、さらにライフサイエンスの技術を獲得してきました。そして当社の強みは、様々なテクノロジーを融合させ、新しいものを生み出す力にあります。新しい研究開発体制はその力をさらに強め、当社の持つ多様な技術を融合し、シナジーを発揮させ、新しいものづくりを一層加速させていきます。

また、当社の事業基盤である検体検査事業は、グローバルベースでますますその需要が高まっています。さらに、その検査領域はスクリーニングにとどまらず、モニタリング、確定診断などの新しい領域へと拡がりを見せています。そして2006年以降にライフサイエンス分野の新製品を順次発売していく予定です。

中期経営計画に掲げた基本戦略、グローバルニッチNo.1、アジアフォーカス、ライフサイエンスフォーカスを確実に実践しながら、シスメックスはこれからも、ヘルスケア TESTINGの可能性に挑みつづけていきます。

Topics 2005

第39期上半期事業活動の動向

4月

米国がん学会にてテーラーメイド医療につながる抗がん剤の効果診断法を発表

当社がテキサス大学MDアンダーソンがんセンターと共同研究を進めている、抗がん剤の効果予測診断法の基礎研究成果を米国のがん学会で発表。当社の細胞周期プロファイリング技術が、抗がん剤の効果予測試験に有効な手段であることを医療関係者の皆様に認知いただきました。

5月

欧州試薬工場の増強に着手し、さらに東欧での販売・サービス網を拡充



ノイミュンスター工場 (ドイツ)

シスメックスグループ中期経営計画を策定

6月

株式会社ビー・エム・エル様より血液検査システムを受注

7月

ツール・ド・フランスのドーピング検査で当社製品が活躍

当社製品「多項目自動血球分析装置XE-2100」が、アテネオリンピックに続き、自転車ロードレース「ツール・ド・フランス」のドーピング検査でも採用されました。米国の偉大な自転車選手ランス・アームストロング氏が協会に寄贈され、実現したものです。



多項目自動血球分析装置XE-2100

8月

大塚製薬株式会社とインフルエンザ迅速診断キットの販売契約を締結

当社のインフルエンザ迅速診断キット「ボクテム」について大塚製薬(株)と日本国内における共同販売契約を締結しました。両社の強みであるシスメックスの商品力と大塚製薬(株)の販売力を活かして、インフルエンザ迅速診断キット日本市場でのトップシェアの獲得を目指します。

インフルエンザ迅速診断キット
「ボクテム インフルエンザ A / B」



米国で試薬生産工場の新設に着手

米国における試薬の需要増加に対応するため、米国の試薬供給体制を強化します。1,200万ドルを投資し、2007年4月の稼働を目指して現工場の約2倍の生産能力を有する試薬生産工場の建設に着手しました。

2005.4. >>> 2005.10.

9月

国際試薬株式会社西神工場における 試薬生産能力の強化に着手



国際試薬(株)西神工場

駐在員事務所を開設し、ロシア市場の開拓を加速

欧州統括会社シスメックス ヨーロッパの出先機関として、ロシアに駐在員事務所を設立しました。市場拡大が期待されるロシアにおいて、代理店の販売活動支援に加え、市場の調査を通じてお客様のニーズを把握し、市場に適合した商品とソリューションの提供を目指します。

バイオ・ラッド ラボラトリーズと 米国における共同販売契約を締結

バイオ・ラッド ラボラトリーズ社製
グリコヘモグロビン分析装置「バリアント2ターボ」



保育業務支援ソフトウェア 「ピーカブック」発売

当ソフトは、園児の健康管理、年間保育計画の作成、行政への提出書類作成等の業務を支援し、経営者や保育士の施設運営業務の負担を軽減します。



保育業務支援ソフトウェア「ピーカブック」

ピンクリボン運動をサポート

当社は、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性を訴え、女性の健康や家族の幸せを守ろうというピンクリボン運動の趣旨に賛同し、2004年度よりピンクリボンフェスティバルの支援を行っています。今年度も、東京・神戸で開催されるピンクリボンシンポジウム「ピンクリボンあなたの笑顔のために～乳がんに負けない～」の開催に協力しています。



ピンクリボンシンポジウム東京会場(写真提供:朝日新聞社)



英国グラスゴー保健局へ血液検査システムを導入

10月

ソリューションセンターがオープン

マーケティング、ロジスティクス、サービス&サポートという、お客様に対するソリューション機能を集約・拡充し、お客様の問題解決を支援する“ソリューションビジネス”の発信拠点として新たな事業拠点が完成しました。



ショールーム

貸借対照表

（単位：百万円）

	当中間期末 平成17年9月30日現在	前期末 平成17年3月31日現在	前年同期 増減額
資産の部			
流動資産	53,506	50,060	
固定資産	27,947	27,599	
● 資産合計	81,454	77,660	3,793
負債の部			
流動負債	19,197	18,161	
固定負債	2,738	2,546	
負債合計	21,935	20,708	1,227
少数株主持分			
少数株主持分	828	802	
資本の部			
資本金	7,954	7,954	
資本剰余金	11,182	11,182	
利益剰余金	38,281	36,050	
その他有価証券評価差額金	915	656	
為替換算調整勘定	498	423	
自己株式	△143	△118	
● 資本合計	58,689	56,149	2,540
負債・少数株主持分・資本合計	81,454	77,660	3,793

資産及び資本

総資産は前期末に比べ、37億93百万円増の814億54百万円となりました。これは主に、現金及び預金と有価証券の合計額が14億99百万円増加したこと、棚卸資産が14億97百万円増加したことにより流動資産が34億46百万円増加したことによるものです。

株主資本は利益剰余金が増加したこと等により25億40百万円増加しましたが、株主資本比率は僅かに低下して72.1%となりました。

損益計算書

（単位：百万円）

	当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前年同期 増減率（%）
● 売上高	41,606	36,297	14.6
売上原価	17,425	15,210	
売上総利益	24,181	21,086	
販売費及び一般管理費	19,209	16,773	
営業利益	4,971	4,312	15.3
営業外収益	667	1,127	
営業外費用	166	154	
経常利益	5,473	5,285	3.6
特別利益	24	4	
特別損失	71	242	
税金等調整前中間純利益	5,426	5,047	7.5
法人税・住民税及び事業税	2,059	2,261	
法人税等調整額	△303	△270	
少数株主利益	16	12	
● 中間純利益	3,654	3,043	20.1

売上高

連結売上高は前期に比べ、53億9百万円増の416億6百万円（前期比14.6%増）となりました。日本は医療環境が厳しいものの、臨床検査分野の増収および（株）シーエヌエーとの連結により、前期に比べ、12億44百万円増の166億34百万円（前期比8.1%増）、海外は米国、欧州、中国、APすべての地域におきましても増収となり、40億65百万円増の249億72百万円（前期比19.4%増）となりました。海外売上高の連結売上高に占める割合は60.0%となり、海外のウェイトが非常に高くなっています。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,220	4,359
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,683	△3,682
財務活動によるキャッシュ・フロー	△631	△572
現金及び現金同等物に係る換算差額	120	△9
現金及び現金同等物の増減額	2,026	95
現金及び現金同等物の期首残高	10,457	13,718
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の減少高	△542	—
● 現金及び現金同等物の期末残高	11,940	13,813

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは

42億20百万円のプラスとなりました。これは税金等調整前中間純利益が54億26百万円増加しましたが、売上債権が30百万円減少、仕入債務が5百万円減少、棚卸資産が7億50百万円増加したことが主な要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローは

16億83百万円のマイナスとなりました。これは前年同期に多額に発生した投資不動産の取得による支出が減少したことが主な要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローは

6億31百万円のマイナスとなりました。これは配当金の支払額6億24百万円等が主な要因です。

これらの要因により、現金及び現金同等物の期末残高は119億40百万円となり、前期末より18億73百万円減少しました。

剰余金計算書

(単位:百万円)

	当中間期		前中間期	
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで		平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	
資本剰余金の部				
資本剰余金期首残高		11,182		11,170
資本剰余金増加高				
株式発行による組入額	－		11	
自己株式処分差益	0	0	0	11
資本剰余金中間期末残高		11,182		11,181
利益剰余金の部				
利益剰余金期首残高		36,050		31,243
利益剰余金増加高				
中間純利益	3,654	3,654	3,043	3,043
利益剰余金減少高				
配当金	624		449	
役員賞与	111		100	
(うち監査役賞与)	(15)		(14)	
連結子会社の決算期変更に伴う減少高	687	1,423	－	549
利益剰余金中間期末残高		38,281		33,737

営業利益・経常利益・中間純利益

増収効果により販売費及び一般管理費の増加を吸収し、**連結営業利益**は前期に比べ、6億59百万円増の49億71百万円(前期比15.3%増)となりました。

前中間期と比べ為替差益が減少したものの、**連結経常利益**は前期に比べ、1億88百万円増の54億73百万円(前期比3.6%増)となりました。

特別損失の改善や法人税等の負担率の低下もあり、**連結当期純利益**は前期に比べ、6億11百万円増の36億54百万円(前期比20.1%増)となりました。

貸借対照表

（単位：百万円）

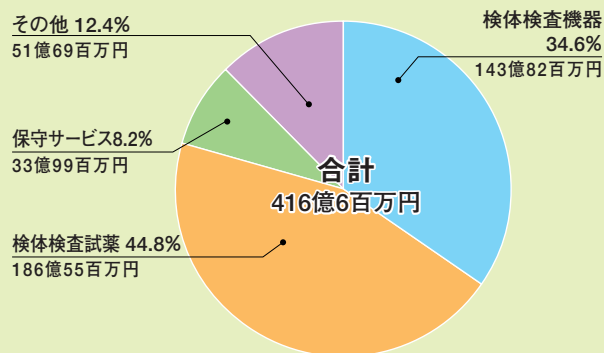
	当中間期末 平成17年9月30日現在	前期末 平成17年3月31日現在	前年同期 増減額
資産の部			
流動資産	41,216	38,938	
固定資産	34,791	34,771	
資産合計	76,008	73,709	2,299
負債の部			
流動負債	15,367	15,370	
固定負債	1,688	1,556	
負債合計	17,055	16,927	128
資本の部			
資本金	7,954	7,954	
資本剰余金	12,114	12,113	
利益剰余金	38,188	36,214	
その他有価証券評価差額金	838	617	
自己株式	△143	△118	
資本合計	58,952	56,782	2,170
負債及び資本合計	76,008	73,709	2,299

損益計算書

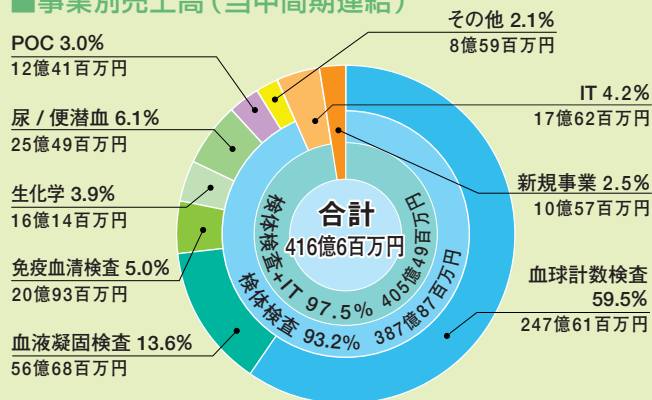
（単位：百万円）

	当中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	前中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	前年同期 増減率（%）
売上高	27,005	25,001	8.0
売上原価	12,069	11,188	
売上総利益	14,936	13,812	
販売費及び一般管理費	12,456	11,395	
営業利益	2,479	2,417	2.5
営業外収益	1,665	1,900	
営業外費用	161	170	
経常利益	3,984	4,147	△3.9
特別利益	2	1	
特別損失	15	230	
税引前中間純利益	3,971	3,918	1.3
法人税・住民税及び事業税	1,295	1,459	
法人税等調整額	△254	△167	
中間純利益	2,930	2,625	11.6
前期繰越利益	1,586	1,378	
抱き合わせ株式消却損	△234	—	
中間未処分利益	4,283	4,004	6.9

■品目別売上高（当中間期連結）



■事業別売上高（当中間期連結）



株式の状況

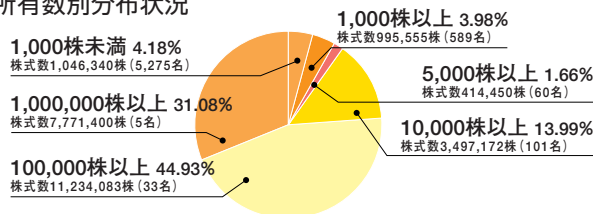
■ 会社が発行する株式の総数 74,836,000株
(149,672,000株)[※]

※()内は、2005年11月18日付をもって、会社が発行する株式の総数を74,836,000株増加して149,672,000株としたものです。

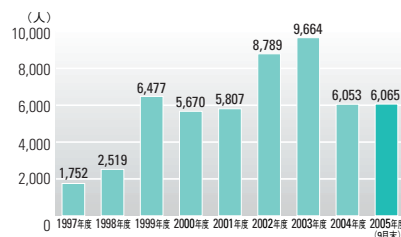
■ 発行済株式総数 25,002,798株
(50,005,596株)[※]

※()内は、2005年11月18日付をもって、2005年9月30日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載、または記録された所有株式1株につき2株の割合をもって分割された株式数です。

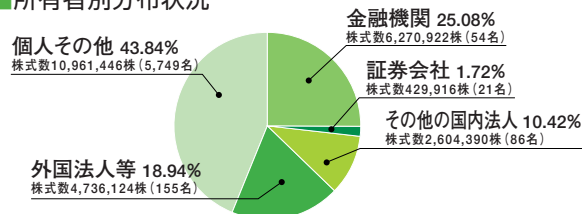
■ 所有数別分布状況



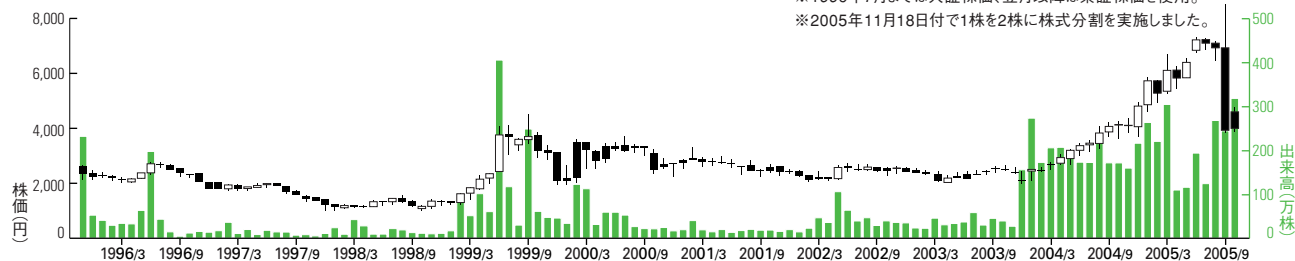
■ 株主数の推移



■ 所有者別分布状況



■ 株価・出来高の推移



株主メモ

- 決算期日 3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
 - 定時株主総会 3月31日
 - 利益配当金 3月31日
 - 中間配当金 9月30日
 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部
- 証券コード 6869
- 1単元の株式の数 100株

■ 株式事務

- 名義書換代理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店
- 同取次所

■ お知らせ

- 1.住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 2.配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
- 3.単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは名義書換代理人にお問い合わせください。

※データは全て2005年9月30日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は2005年10月31日現在のデータです。

会社概要

■商 号

シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
(1998年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)

■設立年月日

1968年2月20日

■資 本 金

79億5,459万円

■格 付 け

A (R&I:格付投資情報センター)

■従 業 員 数

1,212名 ※左記の従業員数には関係会社への出向者143名および嘱託、パートタイマー199名は含んでおりません。

■主な事業の内容

臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

■主な事業所

本 社

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
TEL.078-265-0500 (代) FAX.078-265-0524

ソリューションセンター テクノセンター 研究開発センター 加古川工場 小野工場

仙台支店 北関東支店 東京支店 名古屋支店

大阪支店 広島支店 福岡支店

営業所 札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、京都、神戸、高松、岡山、鹿児島

■主な関係会社

国際試薬株式会社

シスメックスメディカ株式会社

トーマディカル株式会社

シスメックス物流株式会社

シスメックスRA株式会社

株式会社シーエヌイー

SYSMEX AMERICA, INC. (アメリカ)

SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC. (アメリカ)

SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. (ブラジル)

SYSMEX EUROPE GMBH (ドイツ)

SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH (ドイツ)

WELLTEC GMBH (ドイツ)

SYSMEX UK LIMITED (イギリス)

SYSMEX LOGISTICS UK LTD. (イギリス)

SYSMEX BELGIUM S.A. (ベルギー)

SYSMEX FRANCE S.A.R.L. (フランス)

SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA S.R.O. (スロバキア)

SYSMEX POLSKA S.P.Z O.O. (ポーランド)

済南希森美康医用電子有限公司 (中国)

希森美康香港有限公司 (中国)

希森美康医用電子 (上海) 有限公司 (中国)

希森美康電脳技術 (上海) 有限公司 (中国)

希森美康生物科技 (無錫) 有限公司 (中国)

SYSMEX ASIA PACIFIC PTE LTD. (シンガポール)

SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD (マレーシア)

SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD. (インド)

SYSMEX (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

MED-ONE CO., LTD. (タイ)

SYSMEX SAN TUNG CO., LTD. (台湾)

SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED (ニュージーランド)

PT. SYSMEX INDONESIA (インドネシア)

※データは全て2005年10月31日現在のものです。

役員のご紹介

代表取締役社長

いえつく 恒
家次

取締役 専務執行役員

ゆきもと 賢一
雪本

取締役 常務執行役員

わか 光雄
和歌

取締役 常務執行役員

いわさき 爲雄
岩崎

取締役 執行役員

なかに ただし
中谷

取締役 執行役員

はやし 正好
林

取締役 執行役員

おおひら 重則
大東

取締役 執行役員

やまもと ひろし
山本

取締役 執行役員

なかにま 幸男
中島

取締役 執行役員

たむら こうじ
田村

常勤監査役

あけ た みつひろ
明田 光弘

常勤監査役

いわ た とう
岩田 豊太郎

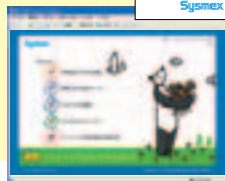
監査役

いし だ 義曉
石田

●IR・広報室からのお知らせ●

個人投資家様向け会社案内をリニューアル。 「優しい医療のカルテ ～For the Quality of Life～」

シスメックスでは個人投資家の皆様に、当社の事業内容や強み、ライフサイエンス分野における取り組み等をよりご理解いただくために、新しい会社案内を作成しました。シスメックスの製品やサービスが、暮らしの中でどのように役立っているのかをイラストを交えながらわかりやすくご紹介しています。当社ホームページでもご覧いただけますので、ぜひご一読いただければ幸いです。



個人投資家様向け会社説明会 および個人投資家様向けIRイベントに参加。

12月3日土曜日、日本経済新聞社東京本社で開催された「第15回個人投資家向け会社説明会 (企画・運営: 日本経済新聞社広告局・(株)日本経済社)」に参加しました。当日の様子は当社ホームページにて動画をご覧いただけます。このほか12月2日、3日に開催された証券会社主催のIRイベントにも出展しました。なお、当社IRスケジュールはホームページにてご確認ください。

